

学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



「心を潤す4つの言葉」

校長 玉川 徹

- 1 「おはようございます」などの挨拶
- 2 「はい」という返事
- 3 「ありがとうございます」という感謝
- 4 「ごめんなさい」という謝罪

これが、「心を潤す4つの言葉」です。私は、子どもだけでなく、大人にとってもとても大切な言葉だと思っています。

1 「おはようございます」などの挨拶

おかげさまで、かなり向上してきたと感じています。保護者の方々も朝、正門前で声をかけてくれます。ありがたい限りです。校舎内で子どもたちとすれ違ふと「こんにちは」と挨拶をする子が増えています。すがすがしく気持ちがよくなります。12月にも、あいさつ運動があります。児童会後期代表委員も気合い十分です。期待しています。

2 「はい」という返事

人前で自分の名前を呼ばれても、返事ができない子がいます。恥ずかしいのかな？自分に自信がないのかな？しっかり返事ができることは、「自分を認め大切にすること」の表れでもあります。どの子にも、よい面があります。見つけて認め、自信をもたせていきたいものです。そして、本校児童全員が自分に自信をもって、「はい」としっかり返事ができる子になって欲しいです。

3 「ありがとうございます」という感謝

人はひとりでは生きていけません。支えたり、支えられたりして生活しています。何かをしてもらうことはたくさんあります。そんなとき、「ありがとう」と素直に言えることは大切です。自然に「ありがとうございます」と言っているのを見ていると気持ちがいいです。うれしいです。家族や友だちなど身近な人たちにも「ありがとう」が素直に言えるようになるといいですね。

先日の「ありがとう集会」において、子どもたちは多くの人に支えられていることを感じたことと思います。

4 「ごめんなさい」という謝罪

子どもは未熟です。失敗はつきものです。大切なのは、失敗しないようにすることではなく、失敗したときに、どうするかを身に付けさせることだと思います。トラブルがあり子どもを指導する場面で、「人のせいにしたり、自分の非をなかなか認められなかったり…」ということがあります。悲しいことです。でも、自分がミスをしたとき、自分の非を素直に認め「ごめんなさい」と素直に謝ることは、大人でもなかなかできないものです。学校は、同年代の集団生活です。人間関係を学ぶ格好の場です。トラブルからも学び、コミュニケーション力を高めて欲しいと思います。「ごめんなさい」が素直に言える子を育てたいですね。

さて、どうでしょう？家庭も学校も地域も、潤いのある温かい環境でありたいものです。